

与野・水と緑の会



「ドングリの苗木を植樹」

所 在：さいたま市

構成員：32名

中央区はかつての農業用水（鴻沼川、高沼用水東縁、西縁）が、地域を北から南へ貫いています。この一帯は、今では都市化の中にあって貴重な自然環境が残されており、水と緑の豊かなこの環境を次の世代に伝えるため、私たちはドングリの森づくりのほか水質調査、用水めぐりなどを行っています。

ドングリ（種）から育てるドングリの森づくり

～年々減少する雑木林などの再生、創造をめざして、与野中央公園計画地の一面に、公園計画に先行する形でドングリの森づくりを進めています～

受賞の主な取組

- ・与野中央公園計画地の一面に、クヌギやコナラなどドングリの種まきから始めドングリの森づくりを行っています。
- ・平成17年以降、毎年100人ほどの市民参加で、これまで約400本の植樹を実施しました。地域住民を対象に自然に親しむためのクイズラリー（森の樹種や当該地で見られる野鳥などを内容とする）やドングリを使った工作などを行っています。

取組をはじめたきっかけ

ドングリの森づくりをはじめたきっかけとして、一つは都市化が進む中で既存の雑木林などの保全が現実問題としてかなり難しいことであり、公園とか学校などの公共用地の緑化がひとつの方向と考えたこと、二つ目としてビオトープ活動を紹介する本の中に「ドングリから育てる森づくり」という事例がありました。

まず、苗木づくりですが県の植物振興センターのご指導をいただくなどして、会員でドングリ（クヌギ、コナラ）の苗づくりに挑戦し、その後植栽場所については近隣の小、中学校などにあたりましたが、さいたま市都市公園課のはからいで与野中央公園計画地の「一部土地使用許可」をいただき今日にいたっています。（許可面積 2, 169 m²）

これからの展望

ドングリの森は、これから検討される与野中央公園計画の中にどのように位置づけられるかということです。

私たちはこれまで市と市民との共同作業による公園づくり、その一つのモデルケースとする意気込みで森づくりを進めてきましたが、公園づくりに市民が単に意見を言うだけでなく、計画づくり～施工～管理運営のそれぞれのステージで市民がどのように関わっていくのか、今後の大きな課題ではないかと思えます。

ドングリの森づくりの一案として、近隣の小学校の学校林としての位置づけなどが考えられています。



「ドングリを使った工作で楽しい一時」



「落葉で堆肥づくり」

受賞して

私たちの小さな活動が、さいたま環境賞という高い評価をいただいたことは大きな喜びです。私たちの地域では、今8.1haという大きな公園計画が進められています。その中の小さな活動がドングリの森づくりです。なかなか思うようにいかない市民活動ですが、今回の受賞を励みに、これからの活動のステップとしていきたいと思えます。